

盤城の国且理駅お松之助とつお母入と子入からと妻を亡むとをまがし
 老の坂五十年をむらふ春心同町豊皇口か後添ひの落を色も

よはか思ひをめを負ふらりの
 曹主が辛た世
 塩賣ふ出ー跡めて茶
 呑まらーせめら圍のかた

みふかまのよふ政所思ふ心の一本を
 ねくほら口の切りが喜させ人の花香を
 ー中とありしが日ふーせ物うあたら

金ゆく世貫ひけて見るとと味たの
 典吉問へ金十円も下まを譲りもする
 との返事をま喜ひ金をそのへ引取ら

六本やりの母あへ此女の
 親父を算とあーつ
 子の眼を息子は聚
 三組揃ひー普れを一荷あま

大阪新聞錦画 九号



望荷人から
 趣向を四海を
 くの噂の言掛
 けりの人長を
 見て三九度のを
 ぐらと歎息
 せら

日々新聞
 千五百十二
 出た

安夜
 三
 身像堂